

6-メチル-D-アルトロース

# キノコの多糖分離成功

国頭村与那で採取したキノコ類のハツタケ(ベニタケ科)の多糖分離に、琉球、香川、岐阜の三大学研究チームが世界で初めて成功した。十八日に琉球大学で開かれる「日本応用糖質科学会」で発表する。

## 琉大など3大学・土橋さん中心



国頭村与那で採取したハツタケ  
(田幸正邦教授提供)



土橋康比古さん

天然の食物から六炭糖の一つである「6-メチル-D-アルトロース」を多糖の状態で抽出後に取り出したのは初めて。

今春琉球大学大学院修士課程を修了した群馬県出身の土橋康比古さんが中心となり、地元と沖縄で採取できるハツタケで、二〇〇六

## 「ハツタケ」天然食物で世界初

年から研究を進めてきた。

〇七年十二月までに天然物では未発見の糖であることはわかったが、種類は特定できていなかった。そのため、修士論文では「6-メチル-D-アルトロース」であることを記載することができなかった。

三月に共同研究チームが種類を突き止めた。

研究事例が少ないという理由で、ハツタケを研究材料に選んだ土橋さん。「新たな種類を突き止めたことで、細胞実験など、医療分野で役に立つことができればうれしい」と語った。

琉大農学部 田幸正邦教授は「化学合成と同じものを天然物から取り出したのは、大きな発見。L型はいくつか見つかっているが、D型の発見は初めて」と成果を喜んだ。今後は、田幸教授らを中心に「6-メチル-D-アルトロース」の機能性の研究を続けていく。